

今月の特集は「気持ちと思いを交わす」です。様々な立場の方からの文書を読み、みなさんの思いにとても共感しました。と同時に「子どもの話に耳を傾ける」ことは容易ではないことも感じました。

学童保育の中で、一人一人に耳を傾けようとも、子どもの思いをじっくり言葉にさせてあげる時間がとれないことがあります。保護者も働きながら子育てをされてる中、日々の忙がしさに追われゆっくり話ができない状況もあります。しかしながら、子ども達はたくさんの思いを抱えながら、日々懸命に生きています。私たちは一人の大人として「子どものすべてを丸ごと受け止め、それが怒りや悲しみでもいったんは気持ちを共有して引き受ける」ことを忘れてはいけないのだと思いました。

まずは、私自身が、心にゆとりを持ちながら、子どもの気持ちに寄り添っていきたいと思います。子ども同士が心を通わせ、繋がりをあえるように。

また、並行して私たち大人自身がゆとりを持てるような社会にしていかなければいけないことも感じました。指導員の体制、保護者の働き方も合わせて時間に追われることなく、ゆったり過ごせる社会をつくることも、必要かもしれません。

西成区指導員 古谷壽子